

第4回 北見市医療と介護の実践報告会

参加のご案内と抄録集

令和7年度 北見市 在宅医療・介護連携推進事業



日時	令和7年 10月25日(土) 15:30 ~17:30 (開場 15:15)
方法	対面及び Zoom ミーティングによる Web 開催と併用
会場	<u>北ガス市民ホール</u> (北見市民会館) 小ホール 北見市常盤町 2丁目 1-10
対象	北見地域の医療機関、介護保険事業所等で働く医療職・福祉職・介護職・行政職
参加費	無 料
定員	250名 (対面 150名 オンライン 100名)
参加申し込み	下記の URL または二次元コードを読み取り必要事項を入力してください。 https://forms.gle/oT5rV9XiSbyHb1bWA 締め切り：令和7年10月20日(月)まで
主催	北見市医療・介護連携支援センター、北見市



【ご案内】会場の北ガス市民ホール（北見市民会館）小ホールでは、直前まで市民フォーラムを開催します(13:30より)。あわせてご参加頂ければ幸いです。

申し込み URL : <https://forms.gle/pzr9o72TLhyzcqZz6>



プログラム

1. 開会あいさつ：北見市保健福祉部 主幹 地域包括ケア推進担当
2. 演題報告 8題 (発表時間 8分・質疑応答 2分/1人)
座長：木村 輝雄氏 北見市医療・介護連携推進部会 部会長 (北見赤十字病院 脳神経外科)
助言者：長谷川 聡さん 拓北あいの里ケア施設町内会 (札幌市)
3. 閉会あいさつ：

演 題

【演題 1】カテゴリー「多職種連携・リハビリテーション」

廊下の主、語る ―― 走って生まれる？多職種間コーディネーション

○長瀬 綾汰¹,小島 希美²,佐藤 正枝²,原田 久子³,大川原 貴志⁴,山口 浩史⁵,日下 貴文⁶,米田 将基⁷

1.津別病院 リハビリテーション科 理学療法士、2.津別病院 看護部、3.津別病院 栄養科、4.津別病院 薬剤部 薬局長、5.津別病院 副院長、6.津別病院 院長、7.社会福祉法人きたの愛光会 在宅部在宅課

気がつけば今日も私は病棟内を駆け回っている。きっと「またリハ室にいない」、「病棟ランニングマン」など呼ばれている（はず）。なぜこんなにも走っているのか？省察の末、思い出された2つの経験を共有したい。寝たきりの要介護5であった80・90代のふたりの女性だ。しかし、ADL練習状況を現場で共有しながら多職種と語りあう過程の中で、病棟内と本人・家族、そして私に「次は何ができるようになるだろうか？」という視点が育まれた。やがて彼女たちは望む暮らしを取り戻し、通院時に元気な姿を見せてくれた。今回はそのプロセスを振り返りながら、多職種間コーディネーション（調和）が創発するケアの出発点について、皆さんと味わいたい。

【演題 2】カテゴリー「多職種連携・リハビリテーション」

介護過程に基づいた多職種連携による自立支援 ～念願のホルモン焼肉までの道のり～

○佐渡 瑞樹¹,松島 晃² 1.特別養護老人ホーム こもれびの里 リハビリテーション課 作業療法士、2.特別養護老人ホーム こもれびの里 介護課 介護福祉士

本稿は、寝たきりだった利用者様が「念願のホルモン焼肉を食べる」という共通目標の下、離床し、食の喜びを再獲得するまでの実践を報告する。介護職員、看護職員、管理栄養士、歯科衛生士、作業療法士が介護過程に沿ったアセスメントとそれぞれの専門性を発揮し、多角的に連携した。この取り組みにより、利用者様の身体機能・栄養状態が改善し、目標達成に至った。本実践は、利用者様のウェルビーイング達成には、職員の主体的な行動が可能性を大きく広げることが示唆される。本発表が、介護現場における職員の新たな原動力となることを期待する。

【演題 3】カテゴリー「多職種連携・リハビリテーション」

独居生活を維持するための多職種連携が必要な事例

○関 美規弥 ケアプランステーション親水（しんすい）介護支援専門員

独居で生活される、難病（バージャー氏病）、左上下肢麻痺、認知症はないが難聴が強く意思疎通が困難な要介護3の男性。

ほぼ毎年のように病院入退院を繰り返し、退院直後は体力や筋力低下も著しく、年を重ねるごとに介護サービスの頻度や事業所が増加していくなかで、本人の希望である在宅生活を継続するためのケアマネジメントの経過を報告する。

【演題 4】カテゴリー「看取り・日常の療養支援」

利用者や家族の力を引き出す支援とは ～訪問看護の視点と実践～

○中川 恵 訪問看護ステーションおむすび 看護師

訪問看護の現場では、利用者や家族の潜在的な力を引き出す支援が重要である。本報告では、ポジショニングによる拘縮緩和や発声・摂食行動の改善、褥瘡の治癒、膀胱留置カテーテルの閉塞予防、便秘改善、ストーマ管理の安定など、多様な事例を取り上げる。これらは訪問看護師のアセスメントと個別の支援を通じて、本人や家族の自立支援や介護力向上に結びついた。訪問看護の視点から、利用者や家族の力を引き出す関わりの意義と具体的実践を考察する。

【演題 5】カテゴリ「看取り・日常の療養支援」

地域で繋ぐ ACP ～腹膜透析支援を考える～

○今村 美由紀¹、難波 亜衣¹、寺山 葉子¹、坂井 薫²、西尾 妙織³ 1.北見赤十字病院 看護部 看護師、
2.北見赤十字病院 内科、3.北海道大学病院 血液浄化部

当院では、患者が望む腎代替療法の提供に務めている。80 歳代 A さんは、「血液透析はしたくない、でもまだ死にたくない」と腹膜透析(PD)を希望された。保存期より外来で手技獲得に向けた指導を行い、2 年前に PD 導入となった。導入時は、外来・病棟看護師が協力し指導を行い、地域の支援体制を構築して退院した。2 年経過した現在も、訪問看護の支援を受けながら、患者自身で PD を継続している。アドバンス・ケア・プランニングでは、自身で PD の継続が困難になったら施設への入所を希望している。この地域では施設入所で PD を実施している例がないが、A さんが望む医療を提供するために、地域で繋ぐ方法についてみなさんと検討したい。

【演題 6】カテゴリ「看取り・日常の療養支援」

本人の「自宅に帰りたい」という思いを実現するために看護小規模多機能での実践

○門脇 広¹、仙北谷 幸子¹、山田 陵太¹、村上 浩子²、名達 丈浩³ 1.医療法人 オホーツク勤労者医療協会
看護小規模多機能たんぼぼ 管理者 介護福祉士、2.オホーツク勤医協北見病院 地域連携相談室、3.訪問看護
ステーションたんぼぼ

食欲不振で入院した A 氏。点滴治療したが食欲は戻らず肺炎も発症。摂食障害のため経口摂取は困難となり認知症の終末期であると診断を受ける。ご家族はベッドからの転落や点滴の自己抜針、オムツいじりがあるため介護に不安を感じ帰宅は困難と考えていた。本人と家族の思いを尊重するため、看多機で受け入れ点滴・吸痰を行い、転倒や自己抜針もなく穏やかに過ごされていた。ある日 A 氏から「家に帰りたい」と意向があった。

短時間ではあるが帰宅を実現。2 日後に家族に見守られ永眠。A 氏との関わりを振り返り、入院期間の制限や家族の介護負担など様々な要因がある中、看多機での関わりで A 氏の意向を引き出した看多機の実践を振り返り報告する。

【演題 7】カテゴリ「多職種連携・リハビリテーション」

在宅ケア実践ガイドライン 2025（日本在宅ケア学会）のご紹介

○蓮井 貴子 日本赤十字北海道看護大学 看護学部 地域・在宅看護学領域 准教授 看護師

在宅ケアにおいては、複雑な背景をもつ患者や家族に対して多職種が連携してケアを行うことが必要です。日本在宅ケア学会では「エビデンスに基づく在宅ケア実践ガイドライン」を 2022 年に策定し、このたび新しいエビデンスを探索した 2025 年版を刊行しました。ガイドラインは、何が最善かわからない状況の中で、患者や家族、専門職の共有意思決定を支えるための助けとなるものです。エビデンスに基づく共有意思決定では臨床研究の知見だけではなく、専門職の経験知、患者の価値観や臨床的状況が考慮されることが重要です。報告会では、本ガイドラインの概要や ACP やケアマネジメントの推奨事項に関する解説をいたします。

【演題 8】カテゴリ「看取り・日常の療養支援」

施設入所高齢者の死の質を調査します

○櫻井 圭祐¹、米田 将基²、関 建久³、木村 輝雄⁴ 1.在宅医療・救急医療ワーキングチーム会議(北見市在宅医療・介護連携推進事業) 医師、2.社会福祉法人きたの愛光会 在宅部在宅課、在宅医療・救急医療ワーキングチーム会議 理学療法士、3.北見市医療・介護連携支援センター ソーシャルワーカー、4.北見赤十字病院 脳神経外科 医師、在宅医療・救急医療ワーキングチーム会議

現在日本は高齢多死社会を迎え、「死の質（QOD：Quality of death）」の向上がより求められている。QOD 評価尺度の多くは緩和ケア領域で活用されているが、施設入所高齢者における QOD 評価尺度は調べた限り見つからない。そこで緩和ケア領域の QOD 評価尺度の一つである GDI（Good Death Inventory：望ましい死の達成尺度）を用い、施設入所高齢者において望ましい死の達成度と満足度を調査することにした。本調査により施設入所高齢者領域でも GDI を用いての評価が妥当であるかどうかを検討し、また今後の医療的対応の改善や ACP 推進指標としての活用が期待できると考えている。調査は北見市の在宅医療・救急医療ワーキングチーム会議で行う。施設関係者には是非協力をお願いしたい。

【アンケートにご協力ください】

次回報告会の参考のため、報告会終了後にアンケート調査にご協力ください。(所用時間 1 分)

締め切り：令和 7 年 10 月 31 日(金)

回答 URL：<https://forms.gle/yNktnrSZTM7t8iZi8>

